

平成 29 年度 檜 山 の 研 究 活 動

研修部長 今金町立今金小学校

校長 米 田 昌

1 はじめに

檜山校長会は、管内 7 町の小学校 21 校、中学校 12 校で構成されている。

今年度は、第 1 次 3 年研究（29～31 年度）初年度として、檜山校長会教育研究せたな大会を開催した。檜山校長会と各町校長会の組織的、継続的な共同研究体制を強化し、各学校、各町校長会での教育推進に努めている。



2 研究計画

(1) 研究主題

「ふるさと檜山に誇りをもち、自己実現に向けて未来を切り拓く児童生徒の育成」
～社会に開かれた教育課程の実現を目指し、地域に信頼される学校づくりの推進～

(2) 研究分野・研究課題・研究の視点一覧

研究分野	研究課題	研究の視点	担当町
		キーワード	
学校経営	○組織マネジメントを生かした学校経営と校長の在り方	①経営ビジョンの浸透を図る学校経営 経営理念、重点目標、学校評価、学校関係者評価等	せたな町
		②組織の活性化と教職員の資質向上を図る学校経営 経営参画意識の向上、学校職員評価制度等	今金町
		③家庭・地域社会・異校種等との連携を図る学校経営 説明責任、結果責任、地域に根ざした教育活動等	
教育課程	○檜山の特色を生かした創意工夫ある教育課程と校長の在り方	①確かな学力の向上を目指す教育課程 授業改善、学校改善プラン、数値目標等	乙部町
		②豊かな人間性と感性を育む教育課程 特色ある教育活動、体験的な活動、道徳教育等	厚沢部町
		③児童・生徒の個性や特性を生かす教育課程 キャリア教育、放課後学習、体力の向上等	
生徒指導	○児童生徒理解に基づき学校全体で進める生徒指導と校長の在り方	①望ましい人間関係づくりを図る生徒指導 アセス、ほっと等の実施やコミュニケーション活動	江差町
		②自己指導能力の育成を目指す生徒指導 自己選択、自己決定、自立への支援等	上ノ国町
		③学校の教育活動全体を通して行う生徒指導 指導体制の確立、家庭・地域・関係機関との連携等	奥尻町

(3) 研究方法

研究は 3 年計画とし、研究分野を「学校経営」「教育課程」「生徒指導」の 3 分野として、各町校長会は組織的・継続的な共同研究を推進する。

3 研究活動

(1) 檜山校長会教育研究せたな大会の概要

【研究主題】ふるさと檜山に誇りをもち、自己実現に向けて未来を切り拓く児童生徒の育成
～社会に開かれた教育課程の実現を目指し、地域に信頼される学校づくりの推進～

○ 期 日 平成29年10月6日（金）・7日（土）

9:00～9:15 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 14:55 16:30

<1日目>	受付	開会式	講 話	分科会	昼食	分科会	分科会	全体会
-------	----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----

8:45～9:00

10:40 11:10

<2日目>	受付	小中別部会	閉会式
-------	----	-------	-----

◇第1分科会

○ 提言題 「経営ビジョンの浸透を図る学校経営と校長の在り方」

○ 提言者 せたな町立大成中学校長 大 磯 武 志

◇第2分科会

○ 提言題 「魅力ある学校経営に生かす創意工夫ある教育課程と校長の在り方」

○ 提言者 乙部町立栄浜小学校長 本 多 宏 至

◇第3分科会

○ 提言題 「豊かな人間関係を育む生徒指導と校長の在り方」

～生徒指導の機能を生かした学校マネジメントと校長のリーダーシップ～

○ 提言者 奥尻町立青苗小学校長 浅 沼 珠 恵

◇小中別部会

<小学校部会>

○ 提言題 「教職員や特別支援教育コーディネーターの専門性・資質向上にかかわる校長の取組」

○ 提言者 乙部町立明和小学校長 能 代 等

○ 提言題 「生涯を通じて自他の健康に適切に対応する教育活動の推進と校長の指導性」

○ 提言者 江差町立江差北小学校長 藤 森 祐 子

<中学校部会>

○ 提言題 「青苗中学校閉校 そして 奥尻中学校開校」

奥尻町立奥尻中学校長 松 島 甲

4 おわりに

学校の統廃合により、次年度は小学校20校、中学校10校となることを踏まえ、本研究大会の在り方の見直しを検討した。会員へのアンケートの結果、現在の分科会や部会の重要性が共有されていることから、運営面を工夫し、次年度も2日日程、3分科会・小中部会等の現状維持の方向性を見出している。今後も檜山校長会と各町校長会との連携を密にし、研究の基本主題・研究課題の具現化を図るため、研究の視点を踏まえた校長の職能向上と学校経営の改善・充実に資する研究を推進したいと考えている。

また、今年度は、道小宗谷・稚内大会で「健やかな体」の提言発表を行い、檜山の地域性を生かした教育実践を全道へ発信できた。次年度は、全連小函館大会を控え最大限の協力体制をとるとともに、今後も小規模性、へき地性を強みとして生かすような特色ある檜山の学校教育を目指し、研鑽を続けていく所存である。